Japaneseman In NY（ニューヨーク生活）

Photo : Central Park Baseball Field

≪ Yellow Monkey ≫

今年 3 月に話題となっていた映画『グリーンブック』を観た。人種差別が色濃く残る 1960 年代当時のアメリカ南部を舞台に、黒人ジャズ・ピアニストとイタリア系白人運転手の 2 人がコンサートツアーで友情を深めていく様子を実話をもとに描いた作品で、第 91 回アカデミー作品賞を受賞した。純粋にとてもいい映画だった。

この映画のタイトルは、1936 年から 1966 年までヴィクター・H・グリーンにより毎年出版された黒人が利用可能な施設を記した旅行ガイドブック「The Negro Motorist Green Book」から付けられたそうだ。ジム・クロウ法（1876 年から 1964 年に存在した人種差別的内容を含むアメリカ合衆国南部諸州の州法の総称）の適用が郡や州によって異なる南部では重宝されたそうだ。

映画『グリーンブック』を観て、当時のアメリカでの人種差別の様子が伝わって来たが、日本人として、アジア人としての人種差別について考えさせられる映画でもあった。欧米では、日本人を含め、東洋人等、黄色人種に対してイエローモンキー (Yellow Monkey) という差別用語が存在することをよく聞いたが、自分がニューヨークで生活している時、面と向かって「Yellow Monkey」と言われたことは一度もなかった。調べると、第二次世界大戦時に連合国の兵士が日本兵を侮辱する際に使われていたとされ、現在は死語に近いらしい。

また、現在も使用されている日本人に対する蔑称としてジャップ（Jap）があるが、ニューヨークで生活している時、面と向かって「Jap」と言われたこともなかった。勿論、この手の差別用語は面と向かってではなく、陰で言われることも多く、陰で言われていた可能性はあるかもしれない。だが、当時もし面と向かって「Yellow Monkey」や「Jap」と言われたとしても、それほど怒りを覚えていたかは分からない。自分も黄色人種と称される東洋人に入るのだろうが、「Yellow Monkey」と言われたとしても、まあ、個人的に見た目は猿っぽかったかもしれないが、肌の色が黄色だとは思わないし、「Jap」もジャパニーズ（Japanese）の短縮形に過ぎないし、そう呼びたきゃ呼べばいいくらいに思っていた。そもそも人種の坩堝とも言われるニューヨークで人種差別なんて気にしていたら、きっと楽しくなんて暮らしていけなかっただろう。

今でも自分自身に対してはあまり気にならないものの、最近、外資系企業の海外 CM で人種差別的な表現が問題視されるニュースが度々取り上げられ、企業側が謝罪するような事態が定期的に起っているが、未だにそんな企業が存在したり、そんな CM を製作する人間がいることにはうんざりさせられる。

ニューヨークに渡り、現地で生活し始めてからも、人種差別を受けることは覚悟済みだったが、映画『グリーンブック』を観て、日本で生活していると疎くなりがちな人種差別について改めて考えさせられた。そして、楽しいニューヨーク生活を送れたことに感謝すると共に、徐々に国際化しつつある日本は大丈夫なのだろうかと不安も感じる今日この頃です。